

# ひらめきの佐賀城、 花見の宴



佐賀新聞創刊130周年と鍋島直正公生誕200周年を記念し、4月5日に佐賀城本丸歴史館で開催された「デイクショナリー倶楽部in佐賀 ひらめきの佐賀城」。脳科学者茂木健一郎さんとイラストレーターのリリー・フランキーさんを中心に、株式会社村岡屋代表の村岡輝繁さん、佐賀県知事の古川康さん、佐賀新聞社社長の中尾清一郎が、「先人から明日を学ぶ」をテーマにトークセッション。いろいろ脱線しながら、佐賀のポテンシャルと、未来への提言をざっくばらんに話し合った。

特集 雑談から始めよう

特集

# 雑談から

# 始めよう

## 雑談のススメ

茂木健一郎さん



コンピュータに唯一出来ない、人間らしい能力が雑談だ。計算や将棋は、近い将来、機械に敵わなくなるだろうが、雑談だけは無理。最も人間らしい高度な能力と言えるだろう。

雑談はコミュニケーションだと思おう。目的があるわけではなく、言葉のやりとりを楽しむのが雑談なのではないか。だから、参加している人が楽しめるかどうかが大切だ。「雑談の達人」とは話題の選び方や変え方、自分なりの考えの出し方、相手の考え方の引き出し方、相槌の打ち方など総合力がある人だ。そういう「雑談の達人」で思い浮かぶのが、解剖学者の養老孟司さんだ。どん

## 最も人間らしい能力

なテーマでも自分なりの考えを話すことができるし、豊富な経験や知識に裏付けされた意見がキラッと光る。その言葉は分かりやすく端的だ。テレビでも雑談風のフリートークが盛んだ。その世界の人には、自分の欠点や不幸なことを笑いにすることが多い。雑談の流儀としては、そういうことを笑いにするのはかなり高度な能力だと思おう。

雑談が楽しめるのは健康な脳である証拠だ。どんなに仕事が忙しいときでも、雑談を楽しめる心の余裕を持つことが結局、発想力豊かな、彩りある人生につながる。心の余裕と人間関係を持つことが脳科学的にも大切だ。

## 生ジャイアントSAGA作ろう!!

リリー・フランキーさん(以下「リリ」) 佐賀の八賢人? 江頭2...50、松雪泰子、白竜さん...  
 佐賀新聞社・中尾清一郎社長(以下「中」) 幕末の佐賀藩は貧しかった。250年前に出来た経済システムのままだらまらりしなげな藩だった。藩の収入は35万石のままだが支出は増えていく。しかも藩内に小城、蓮池、鹿島という支藩があり、多久、武雄、諫早、深堀といった旧龍造寺系の有力邑主もいて、本藩が自由に出来るのは実質10万石前後くらい。さらに1年おきに長崎警備の仕事もあり財政は火の車だった。

リ 荒川良々も佐賀だ! あと4人...  
 中 福岡藩と交代で行っていた長崎警備は本当に大変だった。佐賀藩は真面目に担当して遊興に耽らないので、長崎人は「佐賀んもん」の通った後には「草も生えん」といった。1808年に長崎で「フェーン号事件」が起きた。当時、ヨーロッパではナポレオン戦争が起きていて、それが長崎港での一悶着に繋がった。イギリス船が長崎に殴り込みをかけ、オランダ人を捕虜にして、燃料や食料を強奪していった。佐賀藩の不始末とされ、当時の藩主や藩士が処分された。つまり佐賀には浦賀の50年前に黒船が来たということ。これが目覚めのきっかけになった。もし警備担当が福岡藩だったら日本の歴史も変わっていただろう。

### ◇地方のお城自慢

茂木健一郎さん(以下「茂」) 東京の人は江戸城をほとんど無視しているが、地方の人は地元のお城が大好きだ。仕事柄いろんな場所に呼ばれて行くが、県庁や新聞社の人が必ずお城に連れて行ってくれる。大河ドラマで盛り上がるのも頂けない。

リ 福岡出身なんですけど「軍師官兵衛」って誰ですか? という感じ。今さら福岡で盛り上がらなくても...。それなら博多華丸大吉の方が良いんじゃないか。

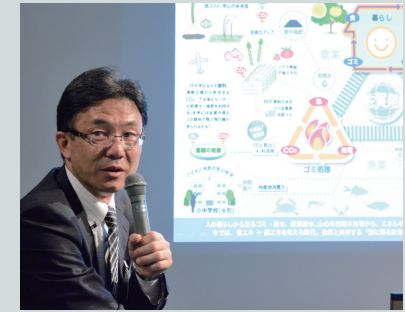
### 公開インタビュー



障害者支援センター SAKURA 副施設長  
角田美樹さん



株式会社サードプレイス代表  
清田祥一朗さん



佐賀市バイオマス産業都市推進課  
井口浩樹さん

茂 細川護熙さんも熊本ではいまだに「殿」。それって時間が止まっているのではないか。

中 昔の方が良いと思っっている。江戸時代は地方が独立した存在だったから。イタリヤも一つの共和国としてではなく、ローマやフィレンツェといったそれぞれの都市という意識が強い。日本も封建時代がなければ、ぬべーとした平板な地方になっていただろう。

リ 現代の城マニアはなんとなく信用できない。いつか選挙に出そうで…。

中 日本の城は防衛機能だけでなく美観も重要視して造られた。250年間、ほぼ使われなかったことも世界的に珍しい。

茂 なぜ明治時代にお城を壊したのだろう。

中 お殿様が東京に行ってしまったことと、軍隊の駐屯地として使われたことが原因だ。

茂 母が唐津出身ということもあり、鼻目かもしれないが、佐賀には良い人や場所が多い。TVに出る人の中では珍しくリリーさんはきちんと中身のある人だが、ほとんどは大したことない。そんな人たちでも地方に行くとかヤホヤされる。本来、逆じゃないのか。地方の誇りを持って、そんな人たちは無視したら良いと思う。

### ◇東京から見た佐賀

中 東京では佐賀の知名度が低い。

リ そもそも九州の場所も分からない。南の方だから全員アロハを着ていると思われている。

中 上海やソウルの方が親近感がある。方言も関係ないし。片付けることを「なおす」というと東京では全く通じない。

リ 「なおす」は伝わらない!! マンハッタンから離れた場所であるブルックリンにアーティストが集まって盛り上がりつつあるように、佐賀もそういう可能性があると思う。

茂 価値があるのにブランディングが下手というか。

——ここで佐賀ゆかりのゲストの乱入。佐賀を代表する銘菓「さが錦」で有名な株式会社村岡屋代表の村岡輝繁さんが、鍋島直正公生誕200年を記念し、会場に最中「鍋島さま」を配りながら登場。

### ◇台本覚えるなら、つぶあん

リ 「さが錦」知ってますよ!

村岡輝繁さん(以下「村」) ありがとうございます。

中 佐賀に美味しいお菓子がたくさんあるのは「シュガーロード」といって江戸時代以降、長崎から貴重な砂糖がたくさん手に入ったから。

茂 先ほど、村岡屋さんに聞いたら、社員が200人くらいいるそう。それだけの仕事を作り出すのは大変なことだ。家族を含めると1000人くらいの生活を支えている。

中 村岡さんは一昨年、社長に就任した。村岡屋さんは小城の羊羹屋さんから始まった。村岡さんのお父さんの栄さんが努力して「さが錦」というお菓子を作った。この名菓は九州で戦後発売されたものの中で、最も成功したお菓子といわれている。

茂 村岡さんは何歳ですか?

村 今年、42歳になります。今、会場に配っている「鍋島さま」は、この商品が出来て60周年ということに記念してつくったスペシャルバージョン。「鍋島さま」に入っている模様は、鍋島家の家紋である「杏葉」。今回は特別につぶあんとさくらあんを用意した。つぶあんは職人が小豆をしっかり炊き上げて作り直した。春らしいイメージということで、もうひとつはさくらあんにした。

茂 脳科学者としてはつぶあんとしあん、どちらが人気があるのかアンケートを取りたい。会場のみなさん、好きな方に手を挙げてください。半々くらいか。作る側としてはどうか。

村 お客さまの好みにもよるが、つぶあんの方がしっかり炊き上げているので、賞味期限は短くなります。



当日配られたお菓子「鍋島さま」

茂 中尾さんは参勤交代みたいによく東京に来るが。中 小さな新聞社は、某大手広告代理店に詣でないといけない。まるで幕藩体制だ。

茂 佐賀新聞文化センターで出している「モテモテさが」は地元企業の広告だけで発行している。そういうことはできないのか。大阪の業界人に聞いたら、TV番組などの制作予算は東京の約半分だという。佐賀だと百分の一くらいか?

中 もっと少ないと思う。でもローカルメディアの問題点は予算の問題よりも熱意がないことだと思う。

茂 大泉洋さんは北海道の地方バラエティ番組からメジャーになった。面白い番組は予算に関係なく出来る。佐賀にも面白い人がいるはずだし、実際に素敵な人が多いという印象だ。

リ 佐賀はイメージに手垢がついていない。これから香ばしい感じになれると思う。例えば表記を「佐賀」から「性」に変えると、一気にアムステルダム的になる。九州のどこからも近い。文化的な人が集まって、ものづくりができるイメージがある。

中 会場のみなさん、佐賀の誇れるものって何でしょうか?

会場 人!

リ 江頭2..50とか!

茂 確かに偉人です。

リ このイベントに江頭を呼ばないというのが佐賀の保守的なところ。

茂 実は佐賀に来るときに列車でアクシデントがあった。「ななつ星」が車両故障を起こして、その影響で乗っていた特急が停車してしまった。

中 佐賀は「ななつ星」が停まらない唯一の県。客車内には洗面器に有田焼が使われているが。

リ あれを停めない!!

茂 最近、石川県で聞いたが、古九谷焼とされる焼き物は実は佐賀で作ったという説があるらしい。

リ 佐村河内さんと新垣さんみたいな…。

リ 役者さんの話では、つぶあんの方が台本内容が入りやすいらしい。

茂 お菓子といえばお茶。お茶という京都というイメージが強いが、実は佐賀にもお茶どころがある。中 日本で最初にお茶の木が植えられたのは佐賀の脊振山。嬉野は煎茶の産地として有名だ。

茂 器も佐賀は有名。柿右衛門窯に行った事がある。窯場の美しい佇まいに圧倒された。ヨーロッパにもあんな空間はない。

### ◇控えめが来る?

中 400年、同じことに打ち込んだことにより地霊が宿る。茂木さんはそれに反応したのだろう。

リ お菓子にお茶に器。佐賀牛や温泉にしてもそうだが、佐賀には最高のものがあるのに気づいていない。北海道のイカは最高、と言っていた大泉洋が博多でイカを食べて、その美味しさに驚いていた。でもそのイカは呼子でとれたもの。ここでも「佐村河内と新垣」「石川」といってもイメージが湧かないが、「金沢」だと文化的な印象を受ける。佐賀にも、そういう記号的なものが欲しい。地名を文化的な名前に変えるとか。

中 元々、肥前は佐賀と長崎で構成されていたが、佐賀の乱の後、佐賀県は一旦消滅してしまっただ。回復運動を経て、現在の状態になった。佐賀と長崎が一つだったら、どうだっただろうか。

リ 三菱東京UFJ銀行みたいにどんどん合併していったら、メガ県になるのは面白い。道州制になったら佐賀はどうなるのか。

中 交通の便を考えると鳥栖市が道都になる可能性もある。

リ 金沢みたいに県名と県庁所在地名が違う印象が強くなる。行きたくなるような地名に変えたら良い。鍋島市とか、松浦濱市とか。「おもてなし」は東京五輪まであと7年くらい盛り上がるだろう。その先を見据えて「控えめ」にやるのが一番民度が高い。

茂 母親も控えめだった。これは唐津の親戚にも共通している性質だ。野心がない感じだ。美徳が今の時代には美徳になっていないのかもしれない。  
中 自慢話もするなとすごく言われた。

茂 村岡さんは佐賀以外で生活した経験はあるのか。そのとき佐賀はどういう反応だったか。

村 東京の大学に行った。佐賀だからどうだ、といった反応はあまり記憶にない。九州の人間だと分かると、みんな親しくしてくれた。東京の人と相性が良かった。

リ 九州から東京に出て来る人は多いので、九州人で集まることも多い。東京の人は九州人⇨浴衣に下駄という印象を持っている。向こうの人は九州内にどんな違いがあるか関心がない。福岡人でよくあるのは、大川出身の人が博多生まれだと小さな嘘をつくこと。そんなことしてもどこにも響かない。九州の男性は意外と押しが強くないので、東京の人と合う。

茂 大阪のアクの強い人は引かれる。東京と九州は相性が良い。

リ 日本とトルコみたいな友好関係。九州の人も地元を出るなら一番上に行く。東京でなければニューヨークやロンドン。

——ここで唐津くんちの衣装に身を包んだ佐賀県知事・古川康さんが登場

### ◆困っていない佐賀

茂 佐賀は良いものを持っているのに、控えめでもつたいないという話をしてきた。

古川康さん(以下「古」) 宣伝下手の理由は困っていないから。佐賀は生活基盤がしっかりしている。税収は低い、借金の少なさは全国3位くらいだ。

リ 富山県も同じで、パッとイメージが湧かないが暮らしやすいさは全国上位だそう。困っていないのが一番困る。

ら、教育現場からすごく不評だった。そもそも教育内容に首長が介入しようと思われたのかもしれない。

中 県内の人に焼き物をあげても、すぐにバザーに出す。焼き物にお金を掛けなくなっている。

古 今はコンビニ弁当をそのまま食べる人が多い。洗うのが面倒だからかエコだからか、中身を器に移し替えることはしない。

リ 友人が離婚した原因は、インスタントラーメンを鍋から直接食べるのを見て幻滅したから。豊かさ⇨手間なんだと思う。

### ◆SAGAの潜在力

古 これまで佐賀県は農協がしっかりしているので、生産者は安心して作物を出荷することができていた。逆に出してしまえばお終いという感覚になってしまいがちなのも事実だ。大量にさばいてくれるルートがあると、いちいち佐賀県産のお米ですよ、とか言わなくても良い。これまでの佐賀の農業はブランドイングよりも量を出すことを重視してきた。そこから質重視に切り替えた。「アルミエ」というブランドのイチゴは1個500円くらいする。それでも店頭で並べるとすぐ売れる。悩みは、基準が厳しいので量が採れないことだ。佐賀県産と書いた方が値段が高くないといけない。

茂 佐賀牛という美味しいイメージだ。

古 10年前は大阪までしか展開できなかった。そこで農協と協力して日本で2番目に厳しい基準を設けることでブランド価値を高めた。

茂 今、佐賀の強みに気づいた！英語表記の「SAGA」は世界ブランドになれる。

古 「SAGA」はフランスで神話に出て来る神様の名前だったり、ボルドーワインの銘柄にもある。

茂 東京より世界を目指すならSAGAは強い。

村 新しい商品にはSAGAの名前を使ってみたい。

古川 康 佐賀県知事

佐賀新聞社長 中尾清一郎氏



茂木健一郎氏

リリー・フランキー氏

株式会社村岡屋代表 村岡輝繁氏

茂 東京に出てエリートコースを進むのも一つの生き方だが、優秀な人が佐賀で仕事をするのはできないのか。

古 佐賀から出るのなら海外に行つてほしい。外国の大学はコストがかかるが、国内しか通用しないキャリアではなく、世界で認められる力を身につけた方が良い。東京は人口を生産しない社会だ。地方都市から人を集めないで成り立たない。佐賀の合計特殊出生率は全国5位。九州各県は総じて高い。大都市圏とくらべて所得は少ないが。

茂 安心安全でないと子どもは育てられない。ある実験によると、フクロウはエサを食べ切れなほど与えられて初めて子どもをつくるという。人間も同じだ。

古 沖縄で仕事をしていて1982年ごろのこと。内地で働いていた若者が帰省して、仕事が大変だと家族にこぼすと、帰ってきていいよーと言われる。

佐賀なら、ここが耐え時だ、もう少し頑張れ、と励まされるだろう。沖縄では、辞めることにそんなに抵抗感がない。そういう居心地の良さがある。日本で一番出生率の高い村である沖縄・多良間島の家庭は子どもが4、5人いるのが普通だ。常に乳幼児がいるので、あまり大変とは思わないそう。

茂 佐賀人の生活にはどんな特徴があるのか。

古 こそつと金持ちが多い。三世代同居や女性が働く率も高い。一世帯あたりの預貯金額は九州で一番高い。農地を持っている家庭が多いので食べ物ももらえる。年金を使わなくても暮らしていける。

茂 母親はおっとりしている。食べ物があるのが普通という感覚。だからガツガツしない。良いところもあるが、県知事としてはまずいのではないか。

古 持っている力を出していこうよ、というスタンス。例えば、せっかく佐賀で暮らすのだから、もっと焼き物について詳しくなろうよ、ということ。子どもたちが学習するようにマニフェストに書いた

リ 差し入れのお菓子を「生」という字が使われていると、あつという間になくなる。「生SAGA」とかどうか。

村 「生SAGA錦」…。生とSAGAの響きは良い。お配りした「鍋島さま」も生最中だ。

リ 生最中と聞いただけで食べたくなる。ところで最中を食べると、口の裏に張り付くことがあるが、あれはなぜなのか。

村 口の中に貼りつくというのは、あまり良くない。あんこと最中の種のバランスが良くなって菌切れが悪いとそうなる。最中は酸素をちゃんと通してあげないといけない。種は呼吸している。真空パックはダメ。本来、作ったその日に食べてほしい。最低でも3日以内だ。

リ やっぱり生だ!! 生最中「SAGAの夜」とか。少子化対策にも良いし。3日持つとあとで食べてもいい感じがする。生だとすぐ食べたくなる。

古 生SAGA、夜のお菓子いいですね。

リ 佐賀県にオフィシャルゆるキャラはないのか。

古 県のオフィシャルのものはない。ゆるキャラとアンテナショップだけは絶対やらないと決めている。ベタだし、いまさらやってもという思いがある。

リ でも熊本はくまモンで相当、アピールできた。

古 でもくまモンだけでしょ。くまモンに対するリスパクトがない。誰かが成功したら乗っかるような…。

リ 東京の空港でも、人気があるから九州代表としてくまモンがいる。でもあれは小山薫堂さんがちゃんとプロデュースしている。「ゆるキャラ」はみうらじゅんさんが作った言葉だけど、お陰でどうしようもないキャラクターでも生きて見える。言葉がなければただのヘンな着ぐるみだ。記号化された言葉があると、いままでもなかったものが輝いて見える。そういうポップな服が佐賀にもあればいいが。

茂 リリーさん描いてください。

リ SAGAモンですか？



佐賀の八賢人おもてなし隊

佐賀美人時計のみなさんと

dictionary club in saga  
ディクショナリー倶楽部 in 佐賀

# ひらめきの佐賀城、 花見の宴

## 2部/ゲストと共に花見の宴

2部では会場を戸外に移し、日本酒やぜんざいのふるまいも。出演者とお酒を飲み交わしながら、最後にはリリーさんの演奏で茂木さんが大熱唱!!



出演者と会場で乾杯



村岡屋のぜんざいのふるまい



日本酒「鍋島」のふるまい



(一社) 社団法人 佐賀青年会議所



日本酒「天山」のふるまい

おいしさに心をつたえて

# 菓心傳心 村岡屋



(一社) 佐賀青年会議所 相原理事長

EGUCHI  
地域資源の有効活用に貢献  
**江口金属株式会社**

司法書士法人 ADVANCE  
アドヴァンス  
Städja Flower Market  
有限会社 まらお花店

農産 業隆緑化建設  
ad:tech kyushu

農産 相互タクシー  
GSI SYSTEM INC.

天山 鍋島

ディクショナリー倶楽部主宰 桑原茂一氏

(一社) 社団法人 佐賀青年会議所

日本酒「天山」のふるまい

茂 おでんくんみたいに。  
古 おでんくん、すごくいいですね！ スタンプ使ってますよ。  
茂 古川さん自身がゆるキャラっぽいんですけど...  
リ アンパンマンミュージアムが今、子どもに爆発的な人気がある。物語があってアミューズメント化するべき。そういう本気の取り組みが必要だ。  
茂 みんな良識的すぎる。ゆるキャラが好きなたちは感覚が違う。  
リ 「ゆるキャラ」はみうらさんのコンセプトから離れていっている。ただかわいくなっている。最近、みうらさんがデザインした「午後の紅茶」のゆるキャラ「ごこのこーちゃん」は本来の姿に近い、思いつきで考えられた姿だ。  
茂 ふなっしーは船橋の非公認キャラだ。同じように佐賀県知事が邪道だといって認めないんだけど、すごく人気が出ちゃって、その対立抗争自体を楽しむとか。  
リ 最初から茶番臭がする。  
茂 県庁に、認めて下さいって署名が集まって、歴史的和解が...  
リ 物語ベースで始めていくことが大事。実はゆるキャラでとっておきのアイデアがある。5メートルくらいある、でかいやつ。ジャンボマックスみたいな。他のゆるキャラを踏んじやう。佐賀の逆襲です。  
茂 吉野ヶ里歴史公園やバルーンフェスタにぴったり!!  
リ 小さいゆるキャラを助けた。見た目は可愛くないけど、優しい心を持っているガリバー的な...  
佐賀っぽくないですか？ ジャイアントSAGA!!!  
古 新しいことを生み出すには、ネットワークが必要。今回のイベントがその契機になれば。  
村 こういう場を与えてもらい光栄に思っている。村岡屋では今、「さが錦」をリニューアルしている。秋には新しい姿を見せたい。その違いにご期待ください。  
茂 リー東京にいと九州はくくりだったが、こうやって帰ってくるとこんなに細かく、佐賀の人は誇りを持っているのだな、と感じた。これは絶対「ジャイアントSAGA」で他のゆるキャラを踏んでまわって佐賀の反撃を見せてほしい。その際には、ぜひ僕に描かせて下さい!!  
茂 アートディレクターの佐藤可士和さんが、何かをPRするためには、包み紙を付けるのではなく、むしろ邪魔なものを取り除いて、本質をそのまま見せるのが最大の効果を生む、と言っていた。佐賀もそうだ。控え目で奥行きのある美しさというか。母親が産まれたところでもあるので、これからも佐賀に寄って、包み紙をとった、佐賀の本当の魅力を探していきたい。  
中 リリーさんと茂木さんのトークは話が飛んでいるようで、お互い間合いを計っている。こういうものは生でないと、なかなか聞けない。きょうはもつと真面目な話をするために、膨大な本を読みました。何の役にも立たなかったですが...  
茂 今日のリリーさんのジャイアントSAGAが出たから。  
リ 生ジャイアントSAGAの方がいいかも。  
茂 夜のゆるキャラ  
リ ですかいですか。  
中 最後に鍋島直正が17歳で藩主になって、その半年後に初めて佐賀の家臣たちに書いた言葉を紹介する。佐賀の風土について想うこと。総じて怠け心が強く、あるいは成すことが遅く、遊びを好み、自分の短所を粉飾し、他人の長所を妬むこと甚だし。自分が怒られているようだ。このような先人の言葉を胸に、地域のために頑張っていきたい。

特集 雑談から始めよう

# 「バイオマス産業都市」って何？

**面** 白いチャレンジは、真面目な会議ではなくリラックスしたおしゃべりから生まれます。モテモテさが編集部では平成25年度「21世紀文化講演」事業として、佐賀市でいろんなチャレンジをしている人々への公開インタビューを行った。ゲストは佐賀市バイオマス産業都市推進課の井口浩樹さんと、カフェオーナーの清田祥一郎さん、障害者支援センターSAKURA副施設長角田美樹さん。会場が一体となり「佐賀市」がもう少し面白くなるようなアイデアを考えた。

まず「バイオマス産業都市さ」とは何か。概要を説明してほしい。佐賀市バイオマス産業都市推進課・井口浩樹さん(以下「井口」)「バイオマス産業都市さ」とは人の暮らしから発生する廃棄物や排水、森林の未利用木材を活用して、自然と共存しながらエネルギーや産業を創出する「昔に帰る未来型」環境都市の構想。壮大でありながら、暮らしに密着した、始末のよい計画を目指している。具体的にはどのような取り組みをしているのか。

井口 基本的には清掃工場と下水浄化センターを中心に、発電や汚泥の堆肥化などをやっていく。メインの取り組みの一つが、焼却炉から二酸化炭素を回収する事業。昨年、清掃工場に実験プラントを設置した。これをミドリムシの培養に活かし、燃料を作りだそうとしている。2020年、佐賀空港からミドリムシ燃料の飛行機で東京オリンピックに行こう！をスローガンとしている。



「ミドリムシ培養について詳しく説明している。」

井口 ミドリムシは「ムシ」と言いながら、植物と動物の中間的存在。二酸化炭素を取り込んで光合成を行う。二酸化炭素吸収効率はイネ科植物の約50倍。高濃度下では約100倍の効率となる。人間が必要とする栄養素59種類を含有しており、サプリメントや機能性食品、化粧品としてすでに製品化されている。またバイオプラスチックの原料やバイオジェット燃料の元となる軽油になる。佐賀市はミドリムシの大量培養技術を持つベンチャー企業「ユーグレナ」と共同研究契約を結び、主にバイオジェット燃料の大量生産を目指している。ユーグレナにはいろんな自治体から共同研究の申し込みがあったと聞くが、佐賀市が選ばれた理由は？

井口 二酸化炭素回収装置だけでなく、今までに培った資源循環システムによって、大量培養を現実的なコストでできる見通しがあったことが大きかったと思う。二酸化炭素はミドリムシ培養だけでなく、野菜の促成栽培や工業用にも利用できる。

4月から清掃工場の発電を使って、市立小中学校の電力を賄う事業が始まった。井口 清掃工場の焼却熱を利用した発電は所内で使う分を除くと、約650万kw/hある。これを4月から新電力事業者が従来よりも高く買ってもらおう。事業者はその電力を佐賀市の小中学校に今までもよりも安く提供してくれる。年間約7000万円くらい、財政メリットができる。子どもたちも自分たちが出したゴミが電気になって、それを学校で使う。環境教育にも結びつけられる。

もうひとつの核として下水浄化センターがある。これまでもメタンガス発電や下水汚泥を使った堆肥作り、海苔栽培に適した成分に調整した水を放流するなど取り組んできたが新しいチャレンジはあるか。

井口 メタンガス発電の発電量を増やす。

食品系と木質系のゴミをうまく活用する。家庭の生ゴミだと分別する必要があるが、食品工場なら画一的で安定した量の生ゴミが出る。また現在、佐賀のクリークに木杭を利用しようと市や県が取り組んでいる。その過程で出る樹皮は、燃やすと焼却炉を傷めてしまうので、工場も処分困っている。だが細かくパウダー状にすることで、メタンガスを効率的に発生させることができる。この仕組みによって、これまでお金をかけて処理していた工場は佐賀から出て行かない。誘致と同様に、今ある事業所が出て行かないようにすることも大切。同時に佐賀市も電力を得る。まさに「始末のよい」仕組みだ。

「昨年モテモテさが12月号と比べても、新たな試みが増えてきている。「バイオマス産業都市さ」構想の裾野は大きいので、それぞれの生活に近い部分も多い。会場から質問やアイデアがあれば。」

**60代男性** 二酸化炭素に市場ニーズはあるのか。

井口 需要は安定しているが、生産力が追いつかない状態だ。二酸化炭素は化学工場の副産物として製造されるが、現在、これらの工場は海外移転を進めている。一方で、京都議定書の関連で二酸化炭素は輸入できないので、ドライアイスとして韓国から持ってきている。主な用途は溶接用だが、半導体製造や植物工場用(トマト・パプリカなど)、食品用などもある。日本で初めての取り組みなので、ここで一緒に組んでやる。その企業もその世界のトップランナーになる。佐賀市は売り手市場なので、市内の事業者が売れる場合は安くしてください。などの条件が出せる。佐賀市民にどれだけメリットがあるかで判断する。佐賀市の清掃工場では二酸化炭素が1日200トンくらい発生している。取り出しコストを考えると、本格的なプラントでは、おそらく50〜100トンくらいが一番効率的な回収

量だと考えている。

**40代男性** 佐賀市はビール会社に小麦を提供している。生ビールを出すときに使う二酸化炭素も佐賀市産を使えば「100%佐賀ビール」になるのでは。さらにおしっこしたら、それも循環する。本場の市民参加型だ。さらにトイレ整備まで出来れば。

**30代男性** 美容室では血流を良くするため、ヘッドスパに炭酸水を使っている。今はボンベから出しているが、それに佐賀産二酸化炭素は使えないか。

「バイオマス産業都市」は国の施策だが、佐賀市の構想はこの枠をはるかに飛び越えている。同構想には「昔に帰る未来型」というフレーズがある。アップデートした江戸時代の生活。入口と出口をきちんと考えて暮らす。これはひとつの思想だと思う。電力の自給自足、ミドリムシや二酸化炭素、メタンガス発電、堆肥…。いろんなキーワードがあるが、中心にある考えをうまく言えないだろうか。

**30代男性** この中で一番インパクトがあるのは「ミドリムシ佐賀」かな。「ミドリムシ」はすごくキャッチーだ。

**40代男性** バイオマスが頭に入りたくれば「ゆるキャラ」を作るとか。「バイオまちゅ」とか。

**60代女性** 子どもが住みやすい街が一番良い街。循環型社会への取り組みを知ってもらえば、いろんな人が移り住んでくるような街になるのでは。もっともっとアピールできる。「ムシ」を夢志と言え換えるとか。

**30代男性** この概念図を見るだけでは分かりづらい。企業と市民どっちのメリットを優先しているのか。またどう関わるのか分かった方がよい。

井口 雇用と税収だけでなく、いろんな裾野が広がる仕組みをつくり、一人でも多くの佐賀市民が関われる仕組みを作りたい。国内には藻類の本格的培養施設が少ない。佐賀で最初に作って、佐賀の業者が携われ



# 家でも会社でもない 「第三の居場所」



株式会社サードプレイス代表  
清田祥一郎さん

きよた・しょういちろう 1980年、福岡県大牟田市生まれ。16歳のとき友人と自転車で九州一周の旅に出る。佐賀大学理工学部入学。21歳で大学を休学、オーストラリアでカフェ文化に魅れ、カフェ開店を志す。大学卒業後、アルバイトで資金を貯め、2006年、佐賀市立図書館に「パンゲアオープン」3年後にJR佐賀駅前に「サードプレイス」オープン。2011年、「サードプレイス」を移転、唐人町に「トレス」として開店。同年、県立図書館に「トレス・キッチン」をオープン（現在、耐震工事のため閉店中。6月に再開予定）。

清田祥一郎さん（以下「清」） 最初は純粋にカフェがしたいという思いだけだった。開店前は料理を学ぶよりもお金を貯めることを優先的にやっていた。とにかく早くお店がしたかった。2つ目のお店は「サードプレイス」という名前。まずは居心地の良い「場所」ということがコンセプトだった。お店で使う材料の考え方を考えるうちに、農業や作り手に興味を持った。それから料理が少しずつ変わっていった。

「サードプレイス」というのは、アメリカの社会学者の著書「グレート・グッド・プレイス」の中に出て来る言葉。スタバのコンセプトでもある。自宅でもなければ、学校・職場でもない、人間には生活の中でそういう場所が必要だ、と書かれていた。例えば、公園や行きつけの床屋さんなど、人それぞれに中間の場所があることが生活を豊かにする。自分にとっては深夜まで開いているツタヤなどだ。

——会場のお客さんはどんなサードプレイスを持っているのか。

**30代男性** やはり本屋とか。

**40代男性** ウェイクボードやスノボ、電車に乗ってどこか行ったり、ドライブしたり。

**20代女性** 最近、佐賀に来たので、一人で行くカフェを探している。

清 ぜひご来店ください!!  
**20代女性** 夜、佐賀空港までの道路をドライブすること。

**30代男性** コンビニかな。

トレスは日曜日が多い。飲食店は平日に定休日をとるケースが多い。日曜日の唐人町は人通りが少ないのか？

清 通行量は平日の方が多く、ひなまつりなどイベントがあるときは、駅から歩いて来る人が増える。紡績通りが整備されて、自転車を通りやすくなったので、あつちに流れていると思う。それ以前は佐大生も中央大通りを使っていた。

——中央商店街活性化という兵庫地区との対立軸で語られることが多いが、実は紡績通り整備にも影響を受けているというところか。

清 自転車の流れを変えるような、何か面白いことをする必要があるのではないかと。

——逆に自転車だと通過されるので、歩く人たちにとって使いやすい仕組みを考えるべきかもしれない。一番の繁華街なのに、休日の方が人が少ないというのが問題だ。

日曜定休の話に戻るが、トレスは人が来ないから休みというだけではなく、できればいろいろな人にあの場所を使ってほしい、という狙いがあるという。

清 最近だと、近くのギャラリーの主催で「尾崎人形絵付けワークショップ」をしたり、農産物などのマルシェを開催した。通常営業にどうしても追い回されるので、イベントしたりワークショップを企画するところまでは手が回らない。逆に場所として使

## 個性を活かした ものづくり

——障害者支援センターSAKURAは利用者の個性を作品に活かしたものがづくりに取り組んでいる。品質もよく、デザイン的にも優れた商品をもっとたくさんの人々に伝えるにはどうしたら良いのか。今日は会場のみなさんと一緒に考えていきたい。まず角田さんのプロフィールで気になるのは「バリ島に憧れて」というところ。なぜバリ島？

角田美樹さん（以下「角」）高校の時に白山通りにある怪しいアジア雑貨屋さんに入り浸っていた。そこでバリ島の写真集を見て世界観の違いに衝撃を受けた。さらびやかな色づかいに打ちのめされて、絶対ここに行くよと決めた。

——そして大学卒業後、バリ島で働く。角 バリの免税店で働きながら地元の人とTシャツ屋さんを共同経営した。バリ島はギャグが大好きな明るい人が多い。常夏なので、時間の感覚があまりない。みんなのんびりになる。日本は四季があるから勤勉な人が多いのではないかと。2年後に佐賀に戻りチャレンジショップでアジア雑貨店を開き、多久に移転した。

——お店は4年くらい経営した。角 長男が重度の障がいを持って生まれた。お店はショッピングセンターの中にあつたから小さい子どもがたくさん来る。他のお子さんの姿を見るのが心理的に本当につらくなった。子どもが病院に入院していたので、店を続けていくのは物理的にも難しかった。

——それから障がい者支援センターSAKURAを手伝うことに。角 理事長は義父だが、自分の孫のことでも思ってたか聞いていた。そして2010年に手織り物雑貨のブランド「ア

トリエクラ」を立ち上げ、施設内にショップを開いた。商品点数は30種類くらいだがそのバリエーションは無限だ。

——さおり織りを中心いろいろな商品を作っている。モチモチさが2013年11月号の企画で、僕に似合うストールを作ってもらった。

角 縦糸は依頼者に選んでもらい、横糸は施設利用者が自由に織っていく。織り機にイメージのものになる写真を貼って作業する。言葉だけでも良い。野山で駆け巡って遊びまわっている金太郎」という注文があつたが見事にそれらしいのが出来た。

——テーマがダイレクトに模様になるので

すみた・みぎ 1977年佐賀生まれ、佐賀西高校卒業。インドネシア・バリ島に憧れて、大阪外国語大学インドネシア語学専攻科を受験したが不合格。立命館大学政策科学部でマーケティング専攻。大学在学中は、長期休みにバックパッカーとして東南アジアを放浪。バリ島の風土、文化がとてつもない気に入った。バリ島へ渡り、現地の土産物店で働きつつ、Tシャツ屋を開く。2年後、佐賀へ戻り、2003年より佐賀市中心部のチャレンジショップでアジア雑貨店を開業。その後多久へ移転。結婚後産まれた長男が重度の障がいがあつたこともありお店を続けるのが難しく、07年に雑貨店を閉店。翌年より障がい者支援センターSAKURAにて働く。2010年、施設の手織り物雑貨のブランド「アトリエクラ」を立ち上げ、施設内にショップを開く。

はなく、抽象化して表現される。非常に面白い仕上がりだ。2人に織ってもらったが出来あがりがあったく違う。愛用しているが評判が非常に良い。一点もののフルオーダーで価格はいくらだと思おうか？

**20代女性** 仕上がるのに何日かかるのか？

角 2週間くらいかかる。

**30代男性** 5千円。

**40代男性** 7980円!!

角 正解は3300円。これでも他の施設と比べると割高だと言われる。施設運営に携わった当時の商品ももっともつと安かつた。ヘアピン1個100円だったのを3倍にした。今考えるとそれでも安いと思う。

——当時は雑貨屋さん委託販売を依頼するとスタッフに話すと、そんなところで売っても誰も買わないから無駄、という反応だった。

——外部にアピールする前に、まず内部の意識を変えなくてはいけない。角田さんは雑貨店を経営した経験があるので、商品そのものの評価ができるのだろう。

角 営業にも回った。テキストが合いそうなお店を選んで、商品を持っていった。現在、神戸など12店舗に置いてもらっている。ハンドメイド系のイベントにも出店している。先日佐賀市であった手作り市に出店し利用者さんに実演してもらった。ものづくりに関心があるお客さんが多かった。興味を持ってもらえた。今後は施設利用者さんにもっと商品づくりに関わってもらおうと思っている。

——最近では佐賀市の民生委員さんたちが使うバッグを合計550個受注生産した。角 初めてのチャレンジだったので2カ月半かけて製作した。1日の目標を立てて少

てほしいという思いはある。基本的に面白いことであれば、積極的に使ってもらっていい。店内だけではなく、テラスをもっと使いたい。

——なぜ中央大通りは休日なのに人がいないのか。それはふらつと寄る場所がないからではないか。日曜日ごとに、面白いことをやっていたら、行く人も増えるだろうし、その周辺のお店にも足を運ぶと思う。

清 最近、通りを挟んで向かい側にある帽子店に行った。オーダーメイドの店だった。生地は持ち込みだったので、後日、自前の久留米紘でハンティング帽を作った。嫁の祖母と話していたら、その帽子店のことを覚えていた。かなり歴史があるようだ。キャップやハットも数種類あるが、どれも1個6500円。世界に一個しかない帽子。仕事も丁寧なので満足している。すごく近くにこういうコンテンツがある。もっとうまく活かしていきたい。

——老舗だけあって、ちょっと入りにくいイメージだから、トレスで帽子を展示するなどして紹介するのどうか。

清 トレスで帽子作りの実演をやってもらうのは面白い。職人さんに話を聞いたり、生地を持ち寄って受注会とか。近くの店の人と組んで何かやるのは楽しそう。帽子店の人がOKしてくれるかどうか分からないが、是非やってみよう。

——せっかくなので場所があるので、もっと活かしていきたい、単純に食べ物を提供するだけではなく、もっと違う使い方をしてみたい。——ちょっと面白いことをやっているだけで、なんとなくその街の雰囲気は良くなっている。緊張らず、楽しみながら、フットワーク軽く、街のコンテンツで遊んでいけたら、いろんな人の「サードプレイス」になるのではないかと。

——自分たちの生活とさほど遠くないところで障がい者の人々が働いている。そのことをもっともつと広く知ってもらいたい。障がい者施設のものづくりは本当に質が高く素敵なものが多い。その魅力を一人でも多くの人に伝えて、いろんな仕事をマッチングする役割が必要だと思う。

——自分たちの生活とさほど遠くないところで障がい者の人々が働いている。そのことをもっともつと広く知ってもらいたい。障がい者施設のものづくりは本当に質が高く素敵なものが多い。その魅力を一人でも多くの人に伝えて、いろんな仕事をマッチングする役割が必要だと思う。

——自分たちの生活とさほど遠くないところで障がい者の人々が働いている。そのことをもっともつと広く知ってもらいたい。障がい者施設のものづくりは本当に質が高く素敵なものが多い。その魅力を一人でも多くの人に伝えて、いろんな仕事をマッチングする役割が必要だと思う。

——自分たちの生活とさほど遠くないところで障がい者の人々が働いている。そのことをもっともつと広く知ってもらいたい。障がい者施設のものづくりは本当に質が高く素敵なものが多い。その魅力を一人でも多くの人に伝えて、いろんな仕事をマッチングする役割が必要だと思う。

——自分たちの生活とさほど遠くないところで障がい者の人々が働いている。そのことをもっともつと広く知ってもらいたい。障がい者施設のものづくりは本当に質が高く素敵なものが多い。その魅力を一人でも多くの人に伝えて、いろんな仕事をマッチングする役割が必要だと思う。

——自分たちの生活とさほど遠くないところで障がい者の人々が働いている。そのことをもっともつと広く知ってもらいたい。障がい者施設のものづくりは本当に質が高く素敵なものが多い。その魅力を一人でも多くの人に伝えて、いろんな仕事をマッチングする役割が必要だと思う。

——自分たちの生活とさほど遠くないところで障がい者の人々が働いている。そのことをもっともつと広く知ってもらいたい。障がい者施設のものづくりは本当に質が高く素敵なものが多い。その魅力を一人でも多くの人に伝えて、いろんな仕事をマッチングする役割が必要だと思う。



障害者支援センターSAKURA 副施設長  
角田美樹さん